

日本応用心理学会第64回大会第1日に、運営委員会および総会が開かれ、以下のような報告および審議、決定がなされた。また総会において学会賞および奨励賞の授与が行われた。

日本応用心理学会平成9年度運営委員会

日 時：平成9年8月30日（土） 11：50～12：50

場 所：駒沢大学 駒沢大学会館（3F-2）

出席者57名

1. 開会 田中副会長
2. 会長挨拶 中村会長
3. 議長選出 事務局推薦により中村会長
4. 報告事項
 - 1) 事業報告
 - (1) 会員の異動および会費の納入状況について（荻野事務局長）
 - (2) 機関誌編集委員会報告（垣本委員）
 - (3) 認定「応用心理士」事務局報告（岡村委員）
 - (4) 学会賞・奨励賞選考委員会報告（正田委員）
 - (5) 学会史編集委員会報告（村井委員）
 - (6) 公開シンポジウムについて（馬場委員）
 - 2) 日本心理学諸学会間連絡会報告（高橋委員）
 - 3) 平成8年度（第63回）大会報告（神作委員）
5. 審議事項
 - 1) 会則改定について

荻野事務局長より会則改訂案の説明が行われ、審議の後、次のような内容の改訂が承認された。

学生会員の設置に伴う旧会則第4条の改訂と、旧会則4条と5条の統合。正会員の入会資格を、(1)四年制以上の大学で心理学およびその隣接分野を専攻したもの、(2)第1号に準じるものとする。会長・副会長はその任期中は常任運営委員とするという規定の追加。常任運営委員会に関する文言の明確化。旧13条の退会、特に会費未納入者に関する規定の明確化。本学会事務局移行に伴う所在地の変更。

2) 平成8年度決算について

高橋前事務局長および岡村認定応用心理士事務局長による説明と、玉井委員による監査報告が行われ承認された。

3) 平成9年度予算について

荻野事務局長による説明が行われ承認された。

4) 名誉会員推薦について（議長交代 田中副会長）

鬼沢 貞氏（会長経験者）

長谷川孫一郎氏（常任運営委員）

中村昭二氏（会長経験者、常任運営委員）

上記3名の常任運営委員会推薦者に西岡昭氏（学会事務局長経験者）を加えた4氏を名誉会員として推薦することが承認された。

5) 平成10年度（第65回）大会開催校について

龍谷大学に決定した。

6) 平成11年度（第66回）大会開催校

東京国際大学に決定した。

6. 閉会

日本応用心理学会平成9年度総会

日 時：平成9年8月30日（土） 1：00～2：00

場 所：駒沢大学 駒沢大学会館（3F-2）

1. 開会 田中副会長
2. 会長挨拶 中村会長
3. 議長選出 中村会長
4. 報告事項
 - 1) 事業報告
 - (1) 会員の異動および会費の納入状況について（荻野事務局長）
 - (2) 機関紙編集委員会報告（垣本委員）
 - (3) 認定「応用心理士」事務局報告（岡村委員）
 - (4) 学会賞・奨励賞選考委員会報告（正田委員）
 - (5) 学会史編集委員会報告（村井委員）
 - (6) 平成9年度公開シンポジウム開催について（馬場委員）
 - 2) 日本心理学諸学会間連絡会報告（高橋委員）
 - 3) 平成8年度（第63回）大会報告（別紙参照）（神作委員）
5. 審議事項
 - 1) 会則改定について 承認
 - 2) 平成8年度決算について 承認
 - 3) 平成9年度予算について 承認
 - 4) 名誉会員推薦について 承認

- 5) 平成10年度（第65回）大会開催校について承認
- 6) 平成11年度（第66回）大会開催校について承認
- 6. 学会賞・奨励賞授与
 - 学会賞 深澤伸幸氏
 - 奨励賞 所 正文氏
- 7. 平成10年度（第65回）大会開催校挨拶
龍谷大学（田中副会長）

- 8. 平成11年度（第66回）大会開催校挨拶
東京国際大学（稲毛委員，志津野会員）
- 9. 閉会

（改訂）日本応用心理学会会則および内則 別掲
平成8年度決算報告 別掲
平成9年度予算案 別掲
認定「応用心理士」平成8年度収支決算報告 別掲
認定「応用心理士」平成9年度収支予算案 別掲
日本応用心理学会第63回大会決算報告 別掲

日本応用心理学会会則

（1997年8月改訂）

第1条 本会は日本応用心理学会（The Japan Association of Applied Psychology）と称する。

第2条 本会は心理学およびこれに基づく学術技芸の応用発達を促進し，隣接諸科学との交流を図り，もって我が国文化の向上発展に貢献することを目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達成するために下記の事業を行う。

- (1) 研究およびその応用に関する諸業務との連絡，新分野の開拓，会員の親和増進
- (2) 機関誌その他の刊行物の編集および刊行
- (3) 大会その他の必要な会合の開催
- (4) 外部からの要請による斯学研究および応用業務の受託あるいは斡旋
- (5) その他必要な事業

第4条 本会の会員は，正会員，名誉会員，賛助会員，および学生会員とする。本会に入会しようとする者は，正会員の推薦により所定の手続きを経て常任運営委員会の承認を得ることとする。

2 正会員の入会資格は，次の通りとする。

- (1) 四年制以上の大学で心理学およびその隣接分野を専攻した者
 - (2) 第1号に準じる者
- 正会員の会費は年額6,000円とする。

3 名誉会員は本会の正会員又は正会員であった者で，本会のために功績顕著な者であって，

運営委員会の議を経た上で，総会の承認を得た者とする。なお，名誉会員は会費を納める義務を有しない。

4 賛助会員は本会の事業に賛同し，運営委員会の承認を経て，所定の会費をもって本会の事業に財政的援助をする者とする。賛助会員の会費は，年額1万円以上とする。

5 学生会員は，四年制以上の大学で心理学およびその隣接分野を専攻している4年次以上の学部在籍中の学生とする。

学生会員である者が，正会員として入会希望する場合は改めて入会の申請を必要とする。

学生会員は，正会員の連名者として本学会大会の発表者となることができる。

学生会員は，正会員と同様に機関誌，ニューズレター等の配布，会務連絡を受けることができるが，応用心理学研究掲載諸報告の連名者となることはできない。

また，本会の業務に関する選挙権，被選挙権を有しない。

学生会員の会費は，正会員の2分の1とする。

第5条 本会に次の役員を置く。会長1名，副会長1名，運営委員若干名，幹事若干名，監査委員2名。

第6条 会長は大会当番機関の代表者，副会長は次期大会当番機関の代表者がこれにあたる。この場合会長および副会長の任期は前期大会終

了の翌日から大会終了の日までとする。また大会当番機関の決定は当該大会に先行する総会の決議による。

なお、会長、副会長および事務局長は第8条の規定に関わらず、その在任中は常任運営委員とする。

第7条 会長は本会を代表し会務を統理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれに代わる。

第8条 運営委員及び監査委員は総会において選出し、任期は2ヵ年とする。ただし再選を妨げない。運営委員は会長及び副会長と共に運営委員会を構成し、本会の運営に当る。

運営委員は互選により、常任運営委員若干名を選出する。常任運営委員は会長および副会長と共に常任運営委員会を構成し、運営委員会の委託を受けて本会の運営を常時担当する。

運営委員会は会長が召集する。

第9条 幹事は会事務の必要に応じ、会員の中から会長が委嘱する。

第10条 本会の目的達成のために必要あるときは、

随時委員会もしくは部会を設けることができる。部会に関する規定は別に定める。

第11条 総会は年1回開催の本会大会の時に開く。ただし会長において必要があると認めるときは臨時総会を開くことができる。

第12条 会員が退会を希望する場合には、退会届を提出しなければならない。

また不都合な行為をした場合は運営委員会の議決によってこれを除名することができる。

所定の会費を一定期間以上納入しない会員については、常任運営委員会の議を経て、退会させることができる。

第13条 本会事務局を当分の間、東京都小平市小川町1-830 白梅学園短期大学心理学科研究室(電話 0423-46-5622, FAX 0423-49-7373)に置く。

事務局長には局長1名および局員若干名を置く。局長および局員は会長がこれを委嘱する。

付 則 1. 本会会則は、平成9年8月30日から実施する。

会 則 内 規 (1997年7月18日常任運営委員会承認)

1. 正会員の入会資格

(1) 4条2項(1)の隣接分野：教育学，児童学，人間関係学，体育学，社会学，社会福祉学，芸術学，宗教学，医学（心身医学，精神医学，行動医学など），看護学，経営学，認知科学（人工頭脳，など），人間工学，など。

(2) 4条2項(2)の第1号に準じる者

1. 心理学及び隣接分野（前記）の短期大学卒業者：2年制にあつては卒業後2年またはそれ以上，3年制にあつては1年またはそれ以上の，応用心理学関連の研修または職場経験を有する者。

2. 心理学隣接分野の高等専門学校卒業者：2年制にあつては卒業後2年またはそれ以上，3年制にあつては卒業後1年またはそれ以上の，応用心理学関連の研修または職場経験を有する者。

3. 心理学および隣接分野の専門学校卒業者（2年制またはそれ以上，専門士取得可能な専門学校）：2年制にあつては卒業後2年またはそれ以上，3年制にあつては卒業後1年またはそれ以上の，応用心理学関連の研修または職場経験を有する者。

4. 高等学校卒業者：6年以上の，応用心理学関連の研修または職場経験を有する者。

5. 旧学校制度の者，あるいは学校教育法に基づく学校以外の学歴，その他については別途検討する。

(3) 4条2項(1)の該当者は，四年制（以上の）大学卒業者とする。

2. 会費未納入者の扱い：2年間滞納した者は連絡の上会員名簿から削除することができる。

平成 8 年度決算報告

収 入			支 出		
項 目	実 行 額	予 算 額	項 目	実 行 額	予 算 額
繰 越 金	2,321,788	2,321,788	第63回大会補助費	500,000	500,000
会 費	<u>5,445,500</u>	<u>4,430,000</u>	シンポジウム費	156,849	200,000
過 年 度 分	1,009,500	180,000	印 刷 費	<u>1,224,591</u>	<u>2,200,000</u>
	(4,500× 31)	(6,000× 30)	機 関 誌	1,163,591	2,100,000
	(6,000×145)		そ の 他	61,000	100,000
本 年 度 分	4,386,000	4,200,000	通 信 費	<u>181,957</u>	<u>350,000</u>
	(6,000×731)	(6,000×700)	機 関 誌	78,820	200,000
賛 助 会 費	50,000	50,000	そ の 他	103,137	150,000
「応用心理士」関係	1,221,000	2,000,000	機関誌編集費	200,000	200,000
雑 収 入	37,410	60,000	ミ ニ 通 信 費	146,240	100,000
			さいころじすと費	38,206	100,000
			諸学会連絡会費	10,000	10,000
			交 通 費	140,000	300,000
			事 務 局 費	524,531	450,000
			事務局移転費	55,540	60,000
			アルバイト費	977,600	962,000
			「応用心理士」関係	553,970	1,200,000
			名簿作成積立金*	400,000	400,000
			学会賞 ・奨励賞積立金	400,000	400,000
			学会史刊行積立金	1,000,000	1,000,000
			予 備 費	0	379,788
			次年度繰越金	2,516,214	
合 計	9,025,698	8,811,788	合 計	9,025,698	8,811,788

* 名簿作成積立金は前年度残金10,312円と平成 8 年度分の40万円を合計して410,312円となる。

以上の通り相違ありません。

平成 9 年7月25日

監査委員 玉 井 寛 ㊞

監査委員 田之内 厚 三 ㊞

平成 9 年度予算案

収 入		支 出	
項 目	予 算 額	項 目	予 算 額
前年度繰越金	2,516,214	第 64 回 大 会 補 助 費	600,000
会 費	<u>4,420,000</u>	公開シンポジウム費	200,000
過 年 度 分	100,000	印 刷 費	<u>4,200,000</u>
本 年 度 分	4,320,000	機 関 誌 2 号 分	2,400,000
	(6,000×720)		(1,200,000× 2)
賛 助 会 費	50,000	学 会 史	1,500,000
		そ の 他	300,000
「応用心理士」関係	1,800,000	通 信 費	<u>650,000</u>
積立金払い戻し	<u>1,400,000</u>	機 関 誌 郵 送 費	200,000
学会賞・奨励賞積立金	400,000		(100,000× 2)
学会史刊行積立金	1,000,000	学 会 史 郵 送 費	100,000
		ミニ通信郵送費	200,000
雑 収 入	300,000	そ の 他	150,000
		機関誌編集費(2号分)	<u>200,000</u>
			(100,000× 2)
		学 会 史 編 集 費	500,000
		さいころじすと郵送費	50,000
		諸学会間連絡会会費	10,000
		応用心理士関係経費	1,250,000
		学会賞	
		・奨励賞関係経費	120,000
		交 通 費	700,000
		事 務 局 費	500,000
		ア ル バ イ ト 費	1,000,000
		名 簿 作 成 積 立 金	
		(第 2 回)	400,000
		予 備 費	106,214
合 計	10,486,214	合 計	10,486,214

認定「応用心理士」平成 8 年度収支決算

収 入 の 部			支 出 の 部		
費 目	予 算 額	決 算 額	費 目	予 算 額	決 算 額
審 査 料 (10,000円×32名)	500,000	320,000	認 定 証 ケ ー ス 代	200,000	0
認 定 料 (30,000円×30名)	1,500,000	900,000	「 認 定 証 」 作 成 費	80,000	40,000
雑 収 入 (郵便為替 500円× 2)		1,000	「応用心理士ニュースレター」 印刷費・PR費	200,000	178,304
			送 料 ・ 振 込 手 数 料	220,000	37,586
			事務用品・消耗品代	100,000	77,989
			会 議 費 (交 通 費 他)	135,000	85,091
			事務局運営費 (アルバイト代含む)	165,000	135,000
			予 備 費	100,000	
収 入 合 計	2,000,000	1,221,000	支 出 合 計	1,200,000	553,970
			残 高	800,000	667,030

平成 9 年 3 月 31 日

上記のとおりご報告いたします。

日本応用心理学会認定「応用心理士」事務局

事務局長 岡 村 一 成 ㊞

認定「応用心理士」平成 9 年度収支予算（案）

収 入 の 部			支 出 の 部		
費 目	8 年度決算額	予 算 額	費 目	8 年度決算額	予 算 額
審 査 料 (10,000円×40名)	320,000	400,000	申請の手引き(一式)印刷代	0	400,000
認 定 料 (30,000円×40名)	900,000	1,200,000	認 定 証 ケ ー ス 代	0	200,000
雑 収 入 (申請の手引き広告掲載料)	1,000	200,000	「 認 定 証 」 作 成 費	40,000	60,000
			「応用心理士ニュースレター」 印刷費・PR費	178,304	150,000
			送 料 ・ 振 込 手 数 料	37,586	60,000
			事務用品・消耗品代	77,989	80,000
			会 議 費 (交 通 費 他)	85,091	100,000
			事務局運営費 (アルバイト代含む)	135,000	150,000
			予 備 費		50,000
収 入 合 計	1,221,000	1,800,000	支 出 合 計	553,970	1,250,000
			残 高	667,030	550,000

平成 9 年 4 月 1 日

日本応用心理学会認定「応用心理士」事務局

日本応用心理学会第63回大会決算報告

1996年9月6・7日

於：中 京 大 学

収 入			支 出	
適 用	金 額		適 用	金 額
大会参加費	1,169,000		印刷費	1,334,471
〔内訳〕 正会員予約分 5,000×165	825,000		〔内訳〕 封筒 1号通信 振込用紙	
正会員当日分 5,500× 43	275,000		プログラム 論文集 コピー代 他	
臨時会員 6,000× 17	102,000		通信費	395,483
学生会員 500× 11	5,500		〔内訳〕 1号通信郵送	
論文集代金	1,159,500		プログラム郵送	
〔内訳〕 予約分 5,000×191	955,000		論文集郵送, 他	
当日分以降 5,500× 33	181,500		懇 親 会 費	624,630
機関扱い 5,500× 4	22,000		記 念 品 費	133,075
写真掲載料 500× 2	1,000		シンポジスト・講師謝礼費	290,000
プログラム代金 500× 0	0		交通費・宿泊費	197,800
懇親会費	368,000		人件費（アルバイト代）	395,000
〔内訳〕 予約分（一般） 5,000× 34	170,000		文具・消耗品費	79,109
予約分（学生） 2,500× 4	10,000		写 真 費	13,038
当日（一般） 5,500× 32	176,000		会場設営費	236,846
当日（学生） 3,000× 4	12,000		大会当日運営費	329,655
広告料	650,000		準備委員会運営費	291,222
〔内訳〕 表紙(2)・(4) 60,000× 2	120,000		大会事務局運営費	90,531
表紙(3) 50,000× 1	50,000			
後づけ1頁 40,000× 4	160,000			
後づけ1/2頁 20,000× 16	320,000			
展示料	120,000			
〔内訳〕 機器類 30,000× 2	60,000			
書籍類 20,000× 3	60,000			
雑収入	44,360			
〔内訳〕 データベース許諾料	24,102			
越河委員より	20,000			
銀行利息	258			
中京大学よりの補助金	400,000			
学会本部よりの補助金	500,000			
合 計	4,410,860		合 計	4,410,860

日本応用心理学会常任運営委員会議事録

1997年度第1回(1997年4月)

日 時：1997年4月25日(金) 18:00~20:40

場 所：駒沢大学 大学会館301

出席者：中村・田中(昌)・稲毛・内海・大久保・大島・大塚・岡村・小野・垣本・神作・高橋・長谷川・馬場・林・平野・福原・正田・村井

事務局(荻野・神田・岩田・藤瀬)

(鈴木 学会史編集関連)

報告事項

1. 第64回大会準備状況(中村大会準備委員長)
2つのシンポジウムを企画している。企画1.(長谷川孫一郎)「現代の青少年の犯罪と大人の役割」, 企画2.(林潔・中村昭之)「家庭内暴力をめぐる諸問題」
2. 機関誌編集委員会より(垣本委員長)
機関誌22号は7月頃の刊行となる。
3. 認定「応用心理士」事務局より(岡村委員長)
 - 1) 認定「応用心理士」認定者は, 1995年9月~1996年8月の間に66名, 1996年10月~1997年3月の間に26名, 累計92名となった。なお, 今後認定者数の報告を3月で区切り, 4月~3月で行うこととする。
 - 2) 応用心理士 News Letter No.2-応用心理士の課題と展望-を第64回大会で配布する予定である。
 - 3) 手引書の残部が少なくなったため, 今年度第64回大会終了後に新しい会則などを掲載して印刷することを考えている。
 - 4) 昨年度の収支報告
 - 5) 退会した「応用心理士」の資格取得者の扱いについて
この問題については, 応用心理士認定委員会で検討の上, 常任運営委員会に案を提出することとなった。
4. 学会賞, 奨励賞審査委員会より(正田委員長)
運営委員および名誉会員に, 5月中頃までに候補者推薦依頼を行い, 6月上旬を締切りとし, その結果を審査委員会で検討の上, 6月の常任運営委員会に報告する予定である。
5. 学会史編集委員会より(村井委員長, 鈴木裕子)

はじめに鈴木裕子氏, 日本大学大学院文学研究科博士後期課程在籍心理学専攻, が, 村井委員長の編集活動の補佐として常任運営委員会に出席することが了承された。

日本応用心理学会のこれまでの活動について情報や文献の収集への協力をいただきたい。更に情報追加の上, 整理した形で, 次回報告する。

6. その他

第63回大会決算報告(神作第63回大会準備委員長)

審議事項:

1. 幹事について(荻野事務局長)
新幹事として神田信彦氏(白梅学園短期大学)を承認した。
2. 大会発表論文集のデータ・ベース化許諾料の取り扱いについて
従来通りの扱いとすることになった。
3. 会則改正(会員資格等)について(中村委員)
林委員が3月に提案した原案を修正し再提案し, 更に継続審議となった。
4. 公開シンポジウムについて(荻野事務局長)
今回の常任運営委員会でテーマを決めることとなった。
5. 常任運営委員会附属各種委員会の任期と委員の確認および変更について(荻野)
 - 1) 任期について, 以下のように確認された。
応用心理士認定委員会(任期3年:1995年6月1日~1998年5月31日)
機関誌編集委員会(任期2年:1996年10月1日~1998年9月30日)
学会史編集委員会(任期:1996年10月1日~)
学会賞・奨励賞選考委員会(任期2年:1996年10月1日~1998年9月30日)
 - 2) 心理学諸学会間連絡会担当者のうち, 荻野委員が稲毛委員に交代。
6. 新入会員審査について
新規申込者31名(推薦者なしの1名については, 事務局が推薦者となり, また, 最終学歴記載なしの1名については推薦者が責任を持って記載させることを条件として)が承認された。
7. 学会賞について(正田)
委員会案として金30,000円と賞状としたいという提案があり承認された。

8. 応用心理学会第66回大会（平成11年）開催校について（中村）

東京国際大学が承認された。

1997年度第2回（1997年5月）

日 時：1997年5月30日（金）18：00～20：00

場 所：富士短期大学 高田記念図書館会議室

出席者：中村・稲毛・内海・大塚・岡村・垣本・

長谷川・馬場・林・福原・正田・村井

事務局（荻野・神田・岩田・藤瀬）

（鈴木）

報告事項

1. 第64回大会準備状況について（中村大会準備委員長）

- 1) 公開シンポジウムについては、8月30日に「家庭内暴力ー親から子へー」を8月31日に「現在の青少年犯罪と大人の役割」を予定している。
- 2) 公開講演は、「傷ついた心の解消と解決ー仏教文化の視点からー」というテーマで駒沢大学学長に依頼する予定である。

2. 機関誌編集委員会（垣本委員長）

応用心理学研究第22号には、昨年のシンポジウム「父親の発達」の記録及び事務局だよりを掲載する。23号は12月に発行する。

3. 「認定応用心理士」事務局（岡村委員長）

- 1) 5月16日に審査委員会を開催。3名の申請者を合格とし、累計83名となった。
- 2) 応用心理学会退会に伴う「認定応用心理士」の扱いについて、規則にしたがい認定の効力を失うが、認定証を返却する規定がないので、応用心理学研究で失効の公告するという結論になった。
- 3) 「認定応用心理士」のPRのためにニュースレターを作成し配布すること、会議のたびに情報を出すことを考えている。
- 4) 非会員の扱いについて、応用心理学会会員になって2年を経ないと申請資格を有しないことを知ると諦めてしまう非会員もいるようである。「認定応用心理士」としてふさわしい活動を行っているような場合は、特例的な扱いをすることも検討したい。

4. 学会賞、奨励賞審査委員会（正田委員長）

学会事務局から運営委員に候補者の推薦の依頼

状を送付した。現在のところ、学会賞5名、奨励賞3名の推薦があった。第1次選考を6月7日に審査委員会で行い、第2次選考を6月20日の常任運営委員会で行う予定である。

5. 学会史編集委員会（村井委員長・鈴木）

資料の調査結果の報告。資料提出をお願いしたい（1965年以降の部会活動が不明なので会報などの資料）。

6. その他

学会事務局（荻野）

入会のしおりの改定について、「認定応用心理士」、学会賞、奨励賞なども含め、学会の沿革もさらに詳しくすることを検討している。

審議事項：

1. 1996年度決算について（荻野事務局長）

高橋前事務局長の決算案伝達を審議

消耗品費が最終的に算出されておらず、予備費が未確定であるため暫定承認の形をとり、次回、常任運営委員会で再度審議することとなった。

2. 1997年度予算について（荻野）

1997年度予算案について、次回、1996年度決算を決定の後、審議することとなった。但し、大会補助費の増額の意見が出され、64回大会からの10万円の増額が承認された。

3. 会則改訂について（林委員）

前回の審議に基づき新たに改訂案が出された。これに対し、①第4条1号に「学生会員」を追加すること、②5条について「退会を求めることができる」を「退会させることができる」に変更すること、および、③その期間に関する内規の必要の指摘がなされた。これについては「2年の未納をもって」とすることが確認された。また、内規案の一部修正がなされ、これらを踏まえ継続審議となった。

4. 新入会員審査について

新規申込者16名の入会が承認された。

1997年度第3回（1997年7月）

日 時：1997年7月18日（金）18：10～20：00

場 所：駒沢大学 大学会館301

出席者：中村・稲毛・内海・大久保・大島・大村・

小野・神作・越河・長谷川・馬場・林・

正田（荻野・神田・岩田・藤瀬）

報告事項：

1. 第64回大会準備状況について（中村大会準備委員長）
発表申し込みは119名。大会プログラムを7月23日乃至24日頃学会事務センターから発送する予定である。
2. 機関誌編集委員会より（荻野事務局長）
垣本委員長の報告を伝達
 - 1) 機関誌22号は、初校原稿の校正を依頼している。8月上旬には発行予定。23号は、査読依頼中。23号に総説か展望を掲載したいので執筆をお願いしたい。
 - 2) 会員数が増加しているので印刷部数を1,100から1,200に増やしたい。
3. 認定「応用心理士」事務局より（岡村委員長）
ニュースレター第2号の初校終了（8月30日発行予定）。
4. 心理学諸学会間連絡会報告（稲毛委員）
 - 1) グループ・ダイナミクス学会が退会した。
 - 2) 「サイコロジスト」について、年2号の発行となっているが、現実には1号のみの発行であるため、今後の扱いが論議となり継続審議となった。
 - 3) 「サイコロジスト」に資格の件を7学会が執筆することになった。

審議事項：

1. 1996年度決算について（荻野）
承認された。

2. 1997年度予算について（荻野）

常任運営委員会への遠隔地からの出席者に対して幹線部分について実費支給とする提案がなされ承認された。これに伴い、予算案の予備費20万円を交通費に移し、交通費を70万円に修正し、予算案は承認された。

3. 会則改訂について（林委員）

入会資格を中心に会則改訂案が提出された。何点かの質疑がなされたが、提案通り承認された。

4. 学会賞・奨励賞第2次選考（正田委員長）

第1次選考経過報告と学会賞候補2名、奨励賞候補1名が示され、選考の上、学会賞は第1次選考で第1候補となった深澤伸幸氏、奨励賞は第1次選考の通り、所正文氏に決定した。

なお、第2次選考の方法について話し合わせ、原則は投票とするが委員会の推薦理由に異議がないかぎり委員会の推薦通りとすることとなった。また、学会賞と奨励賞の区別を明確にして選考を行うべきであるとの指摘がなされた（小野委員）。

5. 公開シンポジウムについて（荻野）

企画、馬場房子委員、テーマを「最近の環境の変化と働く女性の行動」とし、11月15日（土）14：00～16：30に日本大学経済学部大会議室で開催することに決定した。

6. 新入会員審査について

新規申込者9名があり、全員入会を承認された。